



FAS 住まい新聞

発行責任者
福地建装
北斗市中野通 324
Tel.0138-73-5558

～家のテレビコマーシャルは見る人の錯誤を誘う～

◇ 笑顔いっぱいの居住空間を想像させる ◇

テレビCMは、雰囲気や情緒性を醸し出すため、プロの方々が大勢で企画して制作致します。影響力の大きなタレントが、あたかも自らがその家に住んで大満足しているような演技をしたテレビコマーシャルは、見ている人に安心感や素晴らしい家だとの思い込みを与える場合があります。

売るだけの家ならそれでも良いのですが、家づくりに終わりはありません。家は出来上がってからが始まりなので、情緒性や雰囲気などは、ハウスメーカーなどが建主さんと契約するまでの環境づくりに過ぎないのです。

テレビコマーシャルでは、その家に住む事で夫は早く帰宅するようになり、妻はいつもご機嫌で団欒の家族となり、子供の笑顔が何よりも幸せそうに映し出されます。ましてそのCMイメージタレントが、報道キャスターも行う有名タレントとなると、見ている人へ「笑顔いっぱいの団欒家族の家づくり」を完全に刷り込み、思い込ませる事になる事でしょう。

そもそも家は売るものでなく創り上げ、生涯にわたり育て続ける居住空間でなければなりません。それには契約前の情緒性を強調した雰囲気づくりが、生活者の判断力を大きく鈍らせてしまう結果となる場合があります。

また、その膨大なタレントの出演料や放映料金は、間接的であったとしても結果的にその全てを、建築する建主さんが支払っているのです。

◇ テレビコマーシャルは契約前の雰囲気づくり ◇

薪をくべて真っ赤に燃えたストーブの周りに家族が集い、そのストーブの上でスルメや餅を焼いて食べた経験があります。今は古き良き時代の思い出となってしまいましたが、こんな家に住んでみたいと思う人も少なくありません。

燃え上がる赤い炎が、火を囲む家族の顔を朱色に染めて、その顔の全てが溢れる笑顔であったら、見ている人のイメージが薔薇色に膨らんで来るでしょう。

そもそも薪そのものが入手出来なくなり、たとえ入手出来たとしても、蓄えて置く場所もなく、煙突からの排煙が近所に飛散する問題などがあります。実際には人家の無い田舎など、ごく限られた地域でしか使えなくなりました。

それでも住宅営業のコマーシャルは、あたかもそのような家を創れるような演出などが、いくらでも可能でありテレビコマーシャルとは、見ている人に錯誤を与えるために作られているようなものだと思えてなりません。

◇ テレビコマーシャルに理屈は禁物 ◇

薪ストーブは、遠赤外線熱線が放射し、熱線放射とも言いますが温風熱ではありません。この熱線は、物体や人体に当たってから顕熱（寒暖計に見える熱）になります。太陽熱がまさにこの波長熱線なのです。

この太陽熱は、氷点下何十度と言う宇宙と大気圏を通過して地球上に到達し、この熱線が屋根や壁に当たると真冬でも数十度にも達する場合があります。

省エネで身体に優しい家づくりを行うには、このような科学的な裏づけを用いた性能が必要なのです。しかし、このような小難しい屁理屈などは、テレビコマーシャルなどには絶対に禁物なのだとされています。

住宅業界では、見えない性能などを売りトークにするより、見える家、見せる家こそ数を売る住宅会社のビジネスモデルになっていたようです。しかし、一生一代の家づくりを行う建主さんには数など無縁なものでしょう。

住んでからこそ満足出来る賢明な家づくりを実践して戴きたいと思います。
(著者 福地脩悦)

冬の知恵袋

鍋や皿のひび割れを直すには

寒くなってきたねえ。こんなときは、ヤッパリ体が温まるお鍋がいいね。え、久しぶりに出してみたら、「土鍋にひび割れができてた」って事にはなってないかい？

でも、少しのひび割れなら、牛乳で簡単に直せるんだよ。牛乳をお鍋に大目に注いで、5～6分沸騰させるんだ。ついでにひび割れたお皿やカップもあるんだったら、お鍋と一緒に煮るといいんだよ。これだけで、ひび割れが直るんだ。これは、牛乳に含まれているでんぷん質がしみこんで、ひびが大きくなるのを防ぐんだよ。もちろん、牛乳じゃなくて、おかゆを炊いても一緒なんだけど、おかゆだと、なべにお皿なんかは入れにくいからね。

ただ、この方法で直せるのは、土鍋とか瀬戸物のものだけで、ガラス製のものには使えないから注意しないと駄目なんだよ。



ファース本部のオフィシャルサイトは、

空気サラサラ

検索